



原田議員

問

1. 林業の再生・創生に真剣に取り組みべき時期ではないか
2. 森林の多面的活用、景観伐採を進めることで観光資源を生みみたい

質問 当町の将来を展望する時、町の95%を占める森林を資源とした産業の再生、創生に取り組みべき。機械化の推進による間伐コスト低減および若者の就業の誘導も必要と思われる。

町長 今年度の間伐は298ヘクタール。国の補助金に町費をつけ増しているが、材価の低迷で搬出コストの採算が合わずほとんどが切り捨て間伐で活用されていない。森林組合とも連携し、今後の高性能林業機械等の導入への補助金等の支援をしながら間伐・集材の低コスト化を図っていききたい。

町長 中部流域林業活性化センターでは木材の需要拡大について研究をしている。当地としてはどのような木材製品を供給していけば今後の需要が見込まれるのか来年度は基礎的な調査をしたい。山が平坦で伐採・集材コストが低い九州では中国市場とすることは可能ではないか。市場拡大については、様々な地域特性を生かした取り組みが必要だと思う。

質問 木質バイオマスエネルギー循環事業の投資に対する効果にはどのようなものが考えられるのか。また、事業に対する国、県の姿勢はどうか。

町長 地球環境問題、二酸化炭素削減といった地球的な課題に対してもこの地域が取り組んでいることを全国にアピール

きる。また、まちづくりは周辺自治体や企業などと連携しながら進めている。当町の場合は矢崎総業という相手先があり、森づくりの連携やボランティアの受け入れによつて交流人口の増大も図れる。林野庁の「木質ペレット利用推進対策事業」では、木質バイオマス供給施設整備には2分の1の補助がある。県の施策の中では、間伐材利用等に対するの支援制度について検討中である。

質問 森林の多面的活用、森林レクリエーションの振興の取り組みについて伺う。接叡湖周辺への森

林セラピーロードの設定の取り組みはどうか。

町長 4月に全国で6つの地域が森林セラピー基地として認定されている。当町も森林セラピーの効果をうたいながら地域活性化につなげていきたいが、どのような整備を行う

べきか検討している。例えば良いのか検討している。平成3年から旧本川根をエリアに森林レクリエーション協議会を設立しハイキングコースの整備や大井川鐵道とタ

イアップした事業を進めている。林道南赤石線周

辺整備構想の中で尾呂久保周辺、山犬段の森を整

備し、自然観察会等を

行っている。

質問 沿道、河川等の景観の整備および景観伐採の推進について伺う。

町長 平成13年度から大井川鐵道本線、井川線沿いを初め観光客の多い道路沿い、河川の景観伐採を進めている。本年度は沢間以北の井川線沿いを実施している。来年度は寸又峡への沿道他を計画している。

質問 沢間上流の寸又川右岸林道の整備と景観整備により新たな観光資源が開發出来ると共に、寸又峡の周回道路となり交通渋滞対策にも寄与できるのではないか。

町長 平成17年景観法施行、平成18年静岡県景観形成ガイドラインが策定された。当町も環境・景観保全に関する施策を推進し条例制定なども視野に入りたい。

町長 森づくり県民税の用途は荒廃森林を対象としているというが、税金を払う人達からは景観整備への要望がある。

町長 森づくり県民税は現時点では景観伐採への活用は無理。しかし、5年で見直すということが前提条件であること、今後1、2年が経過する中で財源的な余裕を新たな需要に向けることも可能ではないかと思われる。

質問 自然環境や景観の保全に取り組み町としての条例の制定をする考えはないか。

町長 平成17年景観法

施行、平成18年静岡県景

観形成ガイドラインが策定

された。当町も環境・景

観保全に関する施策を推

進し条例制定なども視野

に入りたい。

ないため、活用について

の議論は必要と思われる。

答

1. 高性能林業機械の導入促進により採算性の向上を図りたい
2. グリーンツーリズムを進める中で条件整備を行う